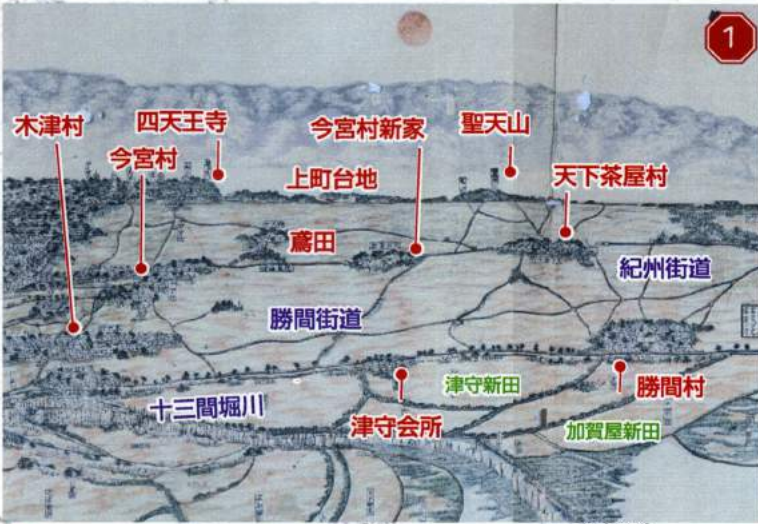
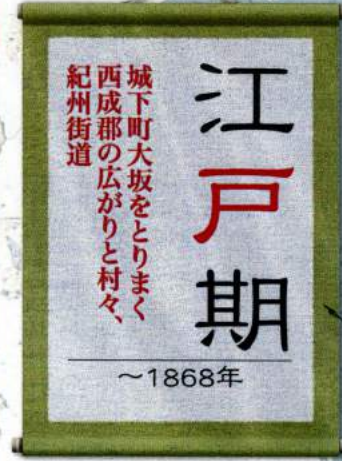


地図と写真からみる

西成区 の歴史



② 1838(天保9)年制作の国絵図に描かれた西成郡全体と、今の西成区エリアの状況。大坂の城下町を北、西、南を取り囲む形で、緑色の村々で構成される西成郡が広がっている。拡大図では、今の西成区を構成する江戸時代の村々が見える。今宮、木津、勝間、中在家の諸村、津守新田に加え、阿部野村、天王寺村が関連していた。



① 大湊一覧(1834年制作)による江戸時代後期の鳥瞰図。いくつかの藩政村集落や田畑の広がり、紀州街道、勝間街道や十三間堀川、数多く造成された新田の広がりがよくわかる。



拡大図

- 西成郡
- 東成郡
- 住吉郡
- 豊島郡
- 川辺郡

③ 住吉名勝図会(1794年制作)から見た、今宮村から天下茶屋に至る紀州街道沿いに南に下った沿道描写である。絵図の左が北で、今の恵美須町から天下茶屋、天神ノ森までを抜き出した。

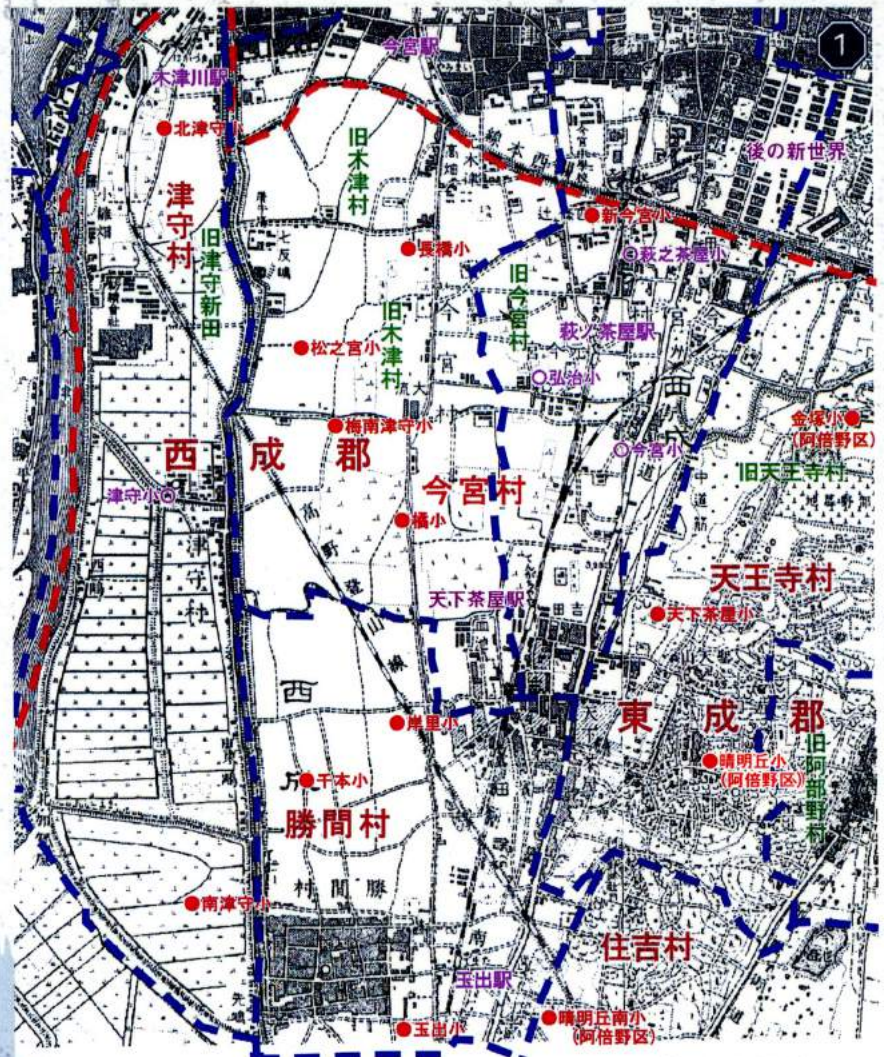


明治期

江戸の藩政村から
明治行政村へ
特徴ある境界変更の歴史

1868年～1912年
(明治元年～明治45年)

① 1907年測量の地形図をもとに、現西成区に関わる江戸期の藩政村である、今宮村、木津村、津守新田、勝間村、



阿部野村、天王寺村などの周辺。参考までに現在の小学校の位置を描いている(2015年3月に閉校になった小学校も含めている)。1889年の市町村制施行で、天王寺村となった阿部野村や、川南村となった津守新田は、複数の藩政村と合併して明治行政村を構成する大字となった。それ以外の今宮村、木津村、勝間村は規模が大きかったこともあり、そのまま明治行政村として衣替えした。そしてわずか8年後の1897年に、赤色点線より以北は大阪市域に編入された。

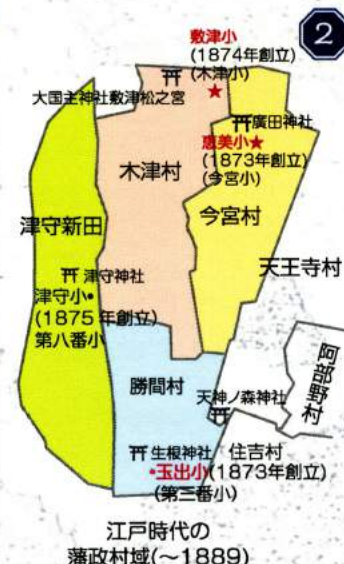
●○は小学校の位置を示している
○は2015年4月で閉校した小学校を示している



④ 大阪市内に入った木津村および今宮村北部を除いた南部だけが、新しい今宮村となり、天王寺村も残された南部分だけが新しく天王寺村となり、その一部が現西成区域となる。津守新田は、川南村になっていたが、大部分が市域に編入されたので、残された津守新田が津守村となった。各村には尋常小学校が創立され、戦時中の国民学校と改称される頃に、創立順番名から固有の校区名となる。



③ 1889年に、明治行政村として、今宮村、木津村、勝間村、川南村などが設立される。赤線が同年に登場した鉄道であり、1897年にそれ以北が大阪市に編入されるまで、木津、今宮、天王寺各村は南北に分割される。



② 灰色線で画した村域が江戸時代の藩政村域である。紀州街道沿いの境界線は、住吉郡や東成郡の境であり、それより東域にあった天王寺村や阿倍野村の一部も、現西成区域に含まれることがわかる。各村の産土神の神社等も記している。

